

外国語科英語学習指導案

指導学級： 1年3組A 14名

指導場所： 少人数教室 A

指導者： 教諭 前田 美香

1 単元名 NEW HORIZON English Course 1, Unit 7 カナダの学校

2 単元について

(1) 教材観

本単元の題材としては、日本の中学生とカナダの中学生ビルがテレビ会議を通してカナダの学校生活についての情報を得る場面が設定されている。互いの国の現在の時刻と天候についての話題から始まり、カナダの学校の授業時数や時間、放課後の活動などの生徒に身近な話題から「異文化理解」「情報教育」を意識させる内容となっている。この題材に関連させ、自分の学校紹介として、所在地、生徒数、行事などについてスピーチする活動に結び付けることができる考える。

言語材料としては、疑問詞 Who…?の使い方とその応答、What time…?や How…?を使った時刻や天気の尋ね方とその応答が扱われている。その他、既習の How many…?や How long…?などの疑問詞も盛り込まれている。疑問詞はコミュニケーションを図る上で欠かせない言語材料であり、疑問詞を含む表現の文構造を確実に理解、定着させることが重要である。これらを用いて生徒が対話活動を行うことで、Yes や No だけで答えられる質問だけではなく、さらに詳しい内容について尋ねたり応答したりすることができるようになると思えられる。本単元の題材や言語材料から英語で身近なことを表現することに興味をもっている生徒たちにとって、コミュニケーションへの興味・関心を高めるのに適した題材であると思える。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、全体的に明るく活動的な雰囲気をもっている。2学期に入って新しい編成をしたため、まだ授業中に遠慮がちな場面が見られるが、自分の知っている単語を使って会話をしようと、意欲的に取り組む姿勢が多く見られる。夏休みの課題等を含め、毎日の家庭学習にも熱心に取り組んでいる。

しかしながら、英語で表現することに苦手意識を強くもっている生徒もいるため、伝えたい内容を支える語彙や英文を繰り返し使わせる活動を設定したり、ペアやグループ活動を取り入れ、お互いに高めあえるような学習形態を工夫したりするようにしている。

また、リスニングを苦手としたり、課題に感じている生徒も多い。この課題を解決するための取組として、単に聞く活動を増やすのではなく、内容を理解して自ら発音する練習を行い、能動的に音声を通しての理解力を高める方法をとっている。具体的には、授業の中で多くの英文を正確に速く読めるようにトレーニングを続けている。

少人数ということもあり、間違いを恐れずに自分の思いや考えを発言する場面が多く見られる。この長所を活かしながら、生徒の思いや考えを正確な英語で表現できる手立てを工夫していきたい。

(3) 指導観

疑問詞 Who…?や What time…?などの新出言語材料の他に疑問詞を用いた疑問文が多く使用されている本単元を指導するにあたり、「帯活動 Q and A」を効果的に活用し、戸惑いなく質問したり答えたりできるよう指導してきている。また、自分の学校紹介のスピーチについてまとまりのある英文を書くための手立てとして、スピーチの内容が英文による学校のウェブ・ページの紹介文となるという想定で課題を設定し、「帯活動 Speech Maker」を用いながら単元を通して段階的に英文を書くことができるようになるような指導を行ってきている。本単元の内容を理解し、自分の学校紹介により多くの情報を盛り込むことができるように、内容を理解するだけにとどまらず、自分のことと関連付けながら、発信できるよう意識させて読み取らせたい。

自国の文化としての一端を学校紹介の形で発信する意欲をもたせるために、導入時には効果的に ICT を活用し、カナダの風景や学校の様子について多くの画像を見せ、カナダと異なる点あるいは類似している点などに気づかせ、興味関心を高めるよう工夫してきている。

3 単元の学習目標

- 学習したことを活用して学校紹介をすることができる。
- 学校紹介に関する英文を聞いたり読んだりして、内容を理解することができる。
- 疑問詞 Who…?の使い方とその応答, What time…?や How…?を使っての時刻や天候の尋ね方とその応答の意味・用法を理解し、それらの表現を身に付けている。

※ 本単元の主たる表現活動における判断基準「自分の学校紹介についてのスピーチ原稿」

「おおむね満足できる」(B)	「十分満足できる」(A)
<p>I go to Yoshidaminami Junior High School. Our school is in Kagoshima, Japan. It's 64 years old. We have about 300 students and 30 teachers. This is a picture of our Sports Day. We enjoy it every year.</p>	<p>I go to Yoshidaminami Junior High School. Our school is in Kagoshima, Japan. It's 64 years old. We have about 300 students and 30 teachers. We have five classes on Monday and six classes from Tuesday to Friday. The classes are fifty minutes long. We have ten minutes between classes. This is a picture of our Sports Day. We enjoy it every year.</p>
所在地, 創立からの年数, 生徒数, 行事についてほぼ定型の表現を用いている。	(B) の定型表現以外に自ら考えた情報を加え, 豊かな内容になっている。

4 単元の指導計画

時間	指導の流れ	言語活動(☆)・ICT活用(◎)の工夫
1	<p>【目標】 新出語句をマスターしよう。課全体の内容をつかもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動 I Q and A / 帯活動 II Speech Maker7-1 ・ 課全体の概要把握 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ Q and A を用いて疑問詞を用いた基本的な質問とその答え方を定着させる。 ☆ Speech Maker を用いて<u>自分の学校の所在地</u>を表現させる。 ☆ 新出語句の正しい発音と用法を理解させる。 ◎ カナダの学校について画像をみせる。
2	<p>【目標】 人について尋ねる文をマスターしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動 I Q and A / 帯活動 II Speech Maker7-2 ・ 新出語句の復習 ・ 疑問詞 Who を用いた表現活動 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ Q and A を用いて疑問詞を用いた基本的な質問とその答え方を定着させる。 ☆ Speech Maker を用いて<u>自分の学校の創立年数</u>を表現させる。 ☆ 新出語句の正しい発音と用法を理解させる。 ◎ タイマーを用いてテンポ良く表現活動に取り組ませる。
3	<p>【目標】 天候の聞き方・答え方をマスターしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動 I Q and A / 帯活動 II Speech Maker7-3 ・ 新出語句の復習 ・ 疑問詞 What time や How を用いた表現活動 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ Q and A を用いて疑問詞を用いた基本的な質問とその答え方を定着させる。 ☆ Speech Maker を用いて<u>自分の学校の教師の数・生徒数</u>を表現させる。 ◎ デジタルコンテンツを用いて天気や時間を表現しやすくさせる。

4	<p>【目標】 時差やカナダの学校について理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動Ⅰ Q and A / 帯活動Ⅱ Speech Maker7-4 ・ 新出語句の復習 ・ 教科書の内容理解 ・ 音読 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ Q and A を用いて疑問詞を用いた基本的な質問とその答え方を定着させる。 ☆ Speech Maker を用いて<u>自分の学校の学校行事</u>について表現させる。 ◎ デジタルテキストを用いてシャドーイングなどの音読活動に取り組ませる。
5 (本時)	<p>【目標】 教科書の内容から分かったことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動Ⅰ Q and A / 帯活動Ⅱ Speech Maker7-5 ・ 音読 ・ まとめのプリント ・ ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ Q and A を用いて疑問詞を用いた基本的な質問とその答え方を定着させる。 ◎ タイマーを活用して読む速度を意識させながら音読活動に取り組ませる。 ◎ プレゼンテーションソフトを用いて短時間で解答する。
6	<p>【目標】 学校紹介のホームページを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動Ⅰ Q and A / 帯活動Ⅱ Speech Maker7-6 ・ 学校紹介のホームページ作成 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ Q and A を用いて疑問詞を用いた基本的な質問とその答え方を定着させる。 ☆ Speech Maker を活用して自分の学校紹介の原稿を作成させる。 ◎ 書画カメラを用いて完成させた学校紹介のホームページを発表させる。

5 本時の実際 (5 / 6)

(1) 主題 「Unit 7 カナダの学校」

(2) 学習目標

- 本文や資料を利用して、カナダやアメリカの学校について英語で表現することができる。
- Unit 7の本文を読んで、TFやQAの問題に取り組み、本文の内容を理解することができる。

(3) 研究仮説に沿った授業設計の視点

- 短時間で相手と英問英答を行い、疑問詞を用いた問答などコミュニケーションを支える語彙・文構造の定着を図る場を設定する。
- 本単元の最終目標である学校紹介について、生徒がスムーズに表現できるように、Speech Makerを用いて継続的かつ段階的な表現活動の場を設定する。
- 音読活動をスムーズに進めるために、デジタルタイマーで時間表示をし、目標をもって音読活動に取り組ませられるような場を設定する。
- デジタル教科書やプレゼンテーションソフトを活用して効率よくワークシート等に取り組ませる場を設定する。
- 重要事項は黒板による掲示をするなどし、ICTとこれまでの教具のそれぞれの特性を生かした提示の場面を設定する。
- 学校紹介について教科書の内容を理解するだけにとどまらず、自分の学校紹介について帯活動で身に付けた文構造を用いてまとめる場を設定する。

(4) 評価規準と生徒の姿

観点	評価規準	生徒の姿
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	理解したことを用いて自分の意見を積極的に発信しようとする。	理解したことを用いて自分の意見を積極的に発信している。
外国語表現の能力	既習の表現を用いてカナダやアメリカの学校について英語で表現することができる。	読み取った内容を基に、カナダやアメリカの学校について正しい文構造を用いて表現している。
外国語理解の能力	海外の時差や学校生活について読んで理解することができる。	本文の内容に関する TF QA 問題に正確に答えている。
言語や文化についての知識・理解		

(5) 授業の展開

(☆:言語活動, ◎:ICT活用)

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
導 入	1分	一斉	1 あいさつをする。	・ 明るい雰囲気です授業を始められるようにする。	
	5分	ペア	2 帯活動 I Q and A に取り組む。	・ ペアで帯活動 I Q and A に取り組ませる。	☆ 短時間で相手と英問英答を行わせる。
	6分	一斉・ペア	3 帯活動 II Speech Maker に取り組む。	・ 個人で Speech Maker の音読とペアでの会話に取り組ませる。	☆ Speech Maker を用いて音読練習や会話練習を行わせる。 ◎ デジタルタイマーで時間表示をし、目標を持って音読活動に取り組ませる。
	1分	一斉	4 本時の目標を確認する。	・ 前時の学習内容を踏まえながら、目標を提示する。	
目標:Unit7 で学習したことを振り返ろう。カナダとアメリカの学校について英語でまとめよう。					
展 開	5分	一斉	5 本文の Speed reading に取り組む。	・ デジタルタイマー・デジタル教材を用いてテンポよく音読させる。	◎ デジタルタイマーで時間表示をし、目標を持って音読活動に取り組ませる。
	12分	一斉	6 本文の内容に関する TF quiz 及び Q and A に取り組む。	・ 本文の内容を確認させ、ワークシートに取り組ませ、解答はプレゼンテーションソフトを用いる。	◎ プレゼンテーションソフトを用いて効率良くワークシートの解答をする。
	10分	グループ	7 教科書の本文と資料を用いて、カナダの学校とアメリカの学校について英語で表現する。	・ カナダやアメリカの学校生活について確認させ、英文で表現させる。	☆ 理解した内容について英語でまとめさせる。
<p>【モデル文】 They have six classes each day from Monday to Friday. The classes are fifty minutes long. They only have five minutes between classes.</p>					

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
展開	5分	グループ	8 カナダの学校とアメリカの学校について分かったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 気づいたことを英語・日本語で表現させる。 	☆ 理解した内容から自分の意見を表現させる。
終末	5分	一斉	9 本時の学習内容を確認する。 10 次時の学習内容を知る。 11 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> 本時で学習したことを確認する。 本時で学んだ表現や帯活動で学習してきた内容を用いて英文で表現できるように意識付ける。 元気よくあいさつをさせる。 	

(6) 検証の方法

- 学習意欲・・・ 生徒の発表の様子や、課題に取り組む態度を観察する。
- ICT活用・・・ 音読活動やワークシートに意欲的に取り組むために効果的に活用し、生徒の理解力を高めるのに効果的であったか、自己評価カード等を用いて確認する。
- 言語活動・・・ ペアやグループでの意欲的な取組、意見交換、自分のことばでのまとめができているかを確認する。